

今週（2月21日から2月25日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して各業態から積極的な資金調達が見られた。無担保コールO/N物は、週初21日から24日に掛けて、▲0.04～▲0.01%近辺のレンジを中心に出会いが見られた。25日は、週末要因により取り上がる先が複数見られたためレート水準が上昇し、▲0.04～▲0.005%近辺の出会いが中心となった。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.01%台後半で推移した。ターム物は、1～2W物を中心に▲0.02～▲0.001%近辺の水準で引き合いが見られた。日銀当座預金残高は、21日に短国の発行要因で大幅に減少し、535～539兆円程度で推移した。

25日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、204,990億円の貸付が行われた（期落ちは195,841億円）。残高は28日時点で822,470億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.095～▲0.080%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2年420～433、5年140～150、10年340～365、20年170～179、30年60～73、40年10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、22日の短国買入オペが増額となったことや、ウクライナ情勢の緊迫化を受けてリスク回避的な動きが強まった。待避的な資金が短期市場に流入したことなどを受け、全ゾーンでやや堅調に推移した。

22日に実施された短国買入オペは、前回から1兆円増額となる1兆5,000億円オファーされ、無難な結果となった。

24日に実施された6M物の入札は、短国買入オペの増額やウクライナ情勢の緊迫化などが意識され、平均・按分共に▲0.0766%としっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは出会いは見られなかったものの、気配は堅調に推移した。

25日に実施された3M物の入札は、WIから強めの買いが見られる中、平均▲0.0904%、按分▲0.0837%とやや堅調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、月末発行を含む週であったことから活況な一週間となった。大型発行は、鉄鋼・石油・重工業・電力・食品等の業態から実施された。期間別に見ると、本決算を控えた調整のため、3月末物を中心に期内物が半数を占めた。週間の発行額は17,500億円程度に対して、償還額は約19,500億円であった。発行残高は、26兆円台半ばと高水準で推移した。

発行レートは、希少な特定の銘柄においては、積極的な応札が引き続見られ、深いマイナス圏での足切りが観測された。その一方で、発行量が多いものや期間が長いものは、0%近傍のマイナス圏での推移であった。

22日には、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は応札8,078億円、落札4,993億円、按分落札レート▲0.040%、平均落札レート▲0.023%となった。前回比でいずれも低下しており、新型コロナオペに対する担保需要が強いことが窺える結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/21 (月)	26,910.87	0.205	115.05	△ 0.019	△ 0.086	5,352,000
2/22 (火)	26,449.61	0.190	114.70	△ 0.017	△ 0.089	5,367,200
2/23 (水)						
2/24 (木)	25,970.82	0.185	114.94	△ 0.017	△ 0.087	5,373,600
2/25 (金)	26,476.50	0.205	115.54	△ 0.013	△ 0.089	5,395,800

来週（2月28日から3月4日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
2/28 (月)	1月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 1月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 1月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)		2月のシカゴPM景況感指数
3/1 (火)		10Y 26,000億円 3/2発行	1月の米建設支出 2月のISM 製造業景況感指数
3/2 (水)	2月のマネタリーベース(日銀 8:50) 10-12月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	交付税借入 10,450億円 3/11借入	米ページブック 2月のユーロ圏消費者物価指数速報値
3/3 (木)	京都府金融経済懇談会において中川審議委員講演 3月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 2月の消費動向調査(内閣府 14:00)	30Y 9,000億円 3/4発行	1月の米製造業新規受注・出荷・在庫 2月のISM 非製造業景況感指数
3/4 (金)	1月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 1月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	TB3M 57,000億円 3/7発行	2月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/28 (月)	▲ 200	▲ 5,000	▲ 5,200	国債補完 CP買入 社債買入 新型コロナオペ	400 ▲ 5,400 ▲ 300 ▲ 195,800	5,000 205,000	8,900	3,700	TB3M発行▲57000償還43000 交付税借入▲11000期日11000
3/1 (火)	0	▲ 35,000	▲ 35,000				0	▲ 35,000	財政融資資金の回収 税・保険料揚げの前倒し 2Y発行▲30000償還15100
3/2 (水)	0	▲ 76,000	▲ 76,000	全店共通 成長基盤オペ	▲ 2,600 ▲ 4,000	7,900	1,300	▲ 74,700	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 10Y発行▲26000
3/3 (木)	0	3,000	3,000				0	3,000	
3/4 (金)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	30Y発行▲9000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 200	▲ 119,000	▲ 119,200	—	▲ 207,700	217,900	10,200	▲ 109,000	

2/28は日銀予想、3/1以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、無担保コールO/N物加重平均レートは、▲0.01%台半ばでの推移が続くと予想する。資金不足日が続く事もあり、各業態の資金調達意欲は強いと見込まれる。レポ市場は、GC T/Nは、引き続き▲0.10%をやや上回る水準での推移を予想する。短国市場は、4日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。1日に実施が予想される短国買入オペのオフア額にも注目したい。CP市場は、引き続き一部の銘柄に積極的な応札が見られるかが注目される。

主要なイベントは、海外では2日にページブック、2月のユーロ圏消費者物価指数、4日に2月の米雇用統計が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入